

午前11時9分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、6番中島秀樹議員の質問を許可します。6番中島秀樹議員。

（6番中島秀樹君登壇）

○6番（中島秀樹君） 6番の中島秀樹でございます。皆様、おはようございます。質問する前に、思っていること2つ申し上げたいと思っております。

私は2期目の議員になりましたが、議員にしかできないことがあるというふうに思っております。それは、議場でものを言うことです。私はこう思うけども、市はどうふうにか、このことは議員だけにしかできないことだというふうに考えております。

ですから、私はきょういただいたこの機会を大切にしていきたいというふうに思っております。

2つ目が、議会では中継をされておりますが、私は議会の事前の趣旨説明のある打ち合わせ、事前打ち合わせのほうが内容的にはおもしろいのではないかというふうに思っております。

職員の方と話をしてみましたらば、職員が個人的にこういうことを考えている。こういった見方ができるというような意見が出ることもあります。議場の放送をするよりも、そういう事前打ち合わせのときに中継したほうがおもしろいのではないかというふうに思っております。

議場とは、字のごとく議論をする場でございます。私は、きょうの一般質問においても議論がしたいというふうに思っております。活発な討論となりますよう、私も一生懸命努力いたしますので、執行部におかれましても明快なる答弁のほうをよろしくお願いいたします。

続きは、質問席よりさせていただきます。

（6番中島秀樹君降壇）

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） では、通告書に従いまして質問をさせていただきます。

まず1番目の公共交通機関の拠点整備についてということを質問させていただきます。

私がこの質問をしようというふうに思いましたのは、10月の末から11月の頭にかけてまして経済委員会のほうで行政視察に参りました。場所は、神奈川県のア野市、山梨県の山梨市、埼玉県の秩父市に参りました。

この3市とも、市の玄関口である公共交通機関の駅前周辺が非常に整備されておりました、「ああ、立派な市だなあ」と、「市の顔として立派だなあ」というふうに思いました。何か魅力ある市だなあというふうに感じました。

それにひるがえって、朝倉市はどうなんだろうというふうに思いましたところ、やはり玄関口としては少し整備がおくれているのではないかというのを感じました。街並みの雑

踏の中に、申しわけなさそうに駅がある。そういったイメージを私は持っております。

そういった意味で、朝倉市の玄関口を整えるべきだというふうに私は考えております。

まず最初にお尋ねしたいのは、私は朝倉市の中心部は旧甘木町になるというふうに思っているんですが、その中で、甘木町の中での核になる部分というのはどこなんだろうというふうに考えております。

1つは、甘木のバスセンターの周辺が中心部になるのではないかとというふうに考えております。

しかし、現実的には福岡市の天神地区と同じように、まちが北から南のほうへ移動しております。朝倉市の甘木町においても同じことが私は言えてるのではないかと考えております。甘木町も、町の中心が現実的には南のほうに動いていっております。

そういった中で、市は甘木の核である中心部はどこであるというふうにとらえていらっしゃいますでしょうか。その点をまずお尋ねしたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 市街地活性化推進室のほうで、ただいま新プラン21に基づく中心市街地の整備を行っておりますが、そのエリアを指定する際に基本的な中心市街地を一定事業区域内ということで定めております。

また、都市計画のほうで、国土利用計画なり都市計画マスタープラン等の指定がなされておりますが、その中でも、まずこの新プラン21の事業エリアを含む範囲としながら国道等を一定の区域範囲といたしまして指定範囲が指定されておりますが、今のところ、鉄道駅周辺、バスセンターを含めまして、国道322号線、それから県道福岡日田線、その1街区程度を含んだところで指定されている状況でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 国道322号線と旧386号線ですかね、この間ということで指定をされているということなんですが、新プラン21、私は残念ながらこれには余り深くかかわっていないんですけども、これで定めているからということが1つの根拠だというふうに今お聞きしたんですが、現実問題では、まちは高速のインターのほうにまちのほうはどんどん南下していていると思ってるんですね、中心部といいますか、俗にいう栄えているところといいますか、発展していているところ、人が集まる場所というのは動いていると思っております。

そういった中で、この新プラン21というプランはいつごろ決められたものなんですか。私が心配しておりますのは、果たしてこれから先、30年先とかを考えたときに、その30年先の計画、未来への検証に耐えきるようなものなのかということを私は心配しておりますが、それについてはいかがお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 新プラン21の計画につきましては、区画整理に

始まる代替計画としまして、平成12年に区画整理の都市計画を決定いたしまして、その後、公共下水道の事業推進を図るために検討期間を設け、その後都市計画決定いたしました区画整理事業を中止することとなり、それに伴います「まちづくり新プラン21計画」を策定し、平成20年度より、まちづくり事業に取り組んでいるところでございます。

先ほど申されました計画策定の時期が、今後30年に及ぶまちのあり方について耐え得るものとなっているかということにつきましては、今、議員がおっしゃっていますように、まちが高速インター等の開通に伴いまして徐々に南へ広がっている状況がございます。

それに伴います中心市街地の空洞化という課題に対しまして、将来にわたって都市が拡大し続けるという状況ではないという判断と、このまま街区が広がることに對して行政が行います下水道整備であり、道路整備であり、一定の中心市街地の都市機能をまとめることが必要だという判断に立ち、今回の新プラン21のエリア内が重点的に整備されるという結果、方針を持った経過があるように考えております。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 今の非常にわかりやすかったと思います。

まずは、この経済的な発展が南のほうに続くというのが、いつまでも続くという確証はないということ。それから、このまま逆に流れにまかせて経済の南下を促進するようなことがあれば、逆に中心市街地が空洞化してしまうということ。

それであれば逆に、私も、確かに経済の中心地は南のほうに南下しているかもしれませんが、文化・歴史のやはり中心地は今の中心市街地、旧386号線と322号線に囲まれたこのエリアだというふうに考えております。そういった中では、やはりここに空洞化を防ぐような手立てををしていかなければいけないというふうに考えております。

そういった意味であれば、私は玄関口というのはやはり中心部に持ってくるのが一番起爆剤になるのではないかなというふうに考えております。ただ、玄関口は甘鉄であるというような意見も聞きます。

まず、お尋ねしたいんですが、朝倉市の玄関口、交通の玄関口というのは市のほうではどこであるというふうにお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 市の交通玄関口といたしましては、先日の浅尾議員の際にも市長のほうに申しておりましたように、大きな交通拠点としては駅周辺、バス停、甘木バスセンター、旧甘木バスセンター、現在甘木のバス停周辺、それからインター口あたりが今交通の拠点化しつつあるというふうに認識しておりますが、中心市街地エリア内にございます鉄道駅周辺、バスセンター周辺が玄関口であるというふうに認識しております。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 甘鉄周辺が玄関口であるということで、お考えのことでは

うか。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） ただいま課長が申しましたように、先日の議会ですね、議会の一般質問の中でも市長がお答えしましたように、限定されるものではないと、現在ですね、複数化していると。

過去も、これ区画整理に及ぶ長い期間、時間をかけて議論をした際にも、やはり1つに絞るということについては現況からすると難しいと。

だから、二極化というような考え方も当時ありまして、最終的にじゃあ拠点をどうするかということは、今日まで明確な結論に至ってないというのが実情でございます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 今、部長のお話を聞きますと、簡単に言いますと結論が出ていないといえますか、議論がまだ十分になされていないというふうに私はとったんですけれども、そうであれば、必ず1つに絞らなくてもいいというふうには考えております。しかし、じゃあ甘木、甘鉄駅周辺とバスセンター2つでいくんだという、こういった方向性もまだ出されていないというふうに考えております。

そういった中では、この議論を始めまして、甘木の玄関口をどこにするんだということを私は議論を始めていい時期ではないかなあというふうに思っております。

そうしないと、私は1つにまとめる必要はないというふうには考えているんですが、しかし玄関口はやはりきちっと整備すべきだというふうに考えております。甘鉄の駅前、それなりに整備はされているというふうに思っておるんですが、西鉄バスの甘木バス停をもう少し私は整備すべきではないかというふうに考えております。

そういった意味では、甘木の中心市街地の改正化のためには、甘木のバス停周辺の整備というのは必須の条件ではないかというふうに考えております。

この議論を始められないといえますか、始めてないのはなぜなのでしょう。これを、理由をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 決して議論を始めてないということではなくて、従来からのテーマであることについては事実でございまして、特に都市計画、それから市街地活性化の立場からは、そのことについて随分と検討をしておる最中でございます。

ただ、先ほどのまちの中心部が南下していくということについて私の思いを述べてみますと、確かに商業施設が、いわゆる中心市街地の中から郊外へ向けて出ていっておるといふ事実はございます。

しかし、じゃあそのことが中心部が動いたのかと、動いているのかということについては、私は疑問視を持っております。

というのは、そこに暮らしがあると、暮らし向きの塊が動いてはいないんですよ。い

いわゆる中心部から商業施設が抜け出しているということでございまして、それは今の社会現象からして、車社会に対応した商業の対応がそうになって、これは全国的にそういう郊外型になっている。

それについては、どうしてもやっぱり中心市街地の中、いわゆる市街地の中については土地が狭い、あるいはかつてから土地の価格が高かったと、建物も密集しているというふうな状況の中で、そういった郊外化の動きが今全国をおおっておりまして。

その結果、中心市街地の中に商業施設が非常に少なくなって、いわゆる文化施設もそうですけれども、そういった暮らし向きの環境がかわってきておるという状況というふうに私は認識をしております。

したがって、中心市街地を活性化させるということは、定住人口もふやしてもらえないかん。それに伴って魅力あるまちをつくらなければならない。そうすると、商業施設も当然ながらそこにやっぱりよみがえさせるといいますか、前回の議会でもありましたけれども、買い物が非常にしづらくなった。そういったまちには魅力も低減しますから、そういったものも要素としてはしなきゃならん。

じゃあ、それが拠点の中を核として考えたときに、どういった方法でやることによってそれが活性化、あるいは拠点化につながっていくのか。ここをめぐって非常にいろんな考え方が市内にもございまして、市長も前回、先日の議会で答弁しましたように、今、検討を重ねて研究中だというふうなことでございます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 部長の個人的な思いが聞けまして、非常に私はほっとしております。

部長がおっしゃいますように、今は朝倉市はモータリゼーションで車で動き回るような商業施設がある意味繁盛しているかもしれませんが、これからは世の中どうかわっていくかわかりませんので、そういった高齢者の方に優しいまちづくりというのも私は必要ではないかなというふうに思っております。

そういった中で、朝倉市の中心市街地、旧甘木町が踏ん張るためにはやはり私はバス停はシンボリックな存在だというふうに考えております。東京の朝倉会、それから関西の朝倉会でよく耳にする話なんですけれども、帰省すると甘木のバス停を見るとがっかりすると、そういった意見を聞きます。

また、先日、浅尾議員の質問の中で、市長が答弁なさいましたけれども、旧朝倉町、杷木町の方も、甘木のバスセンターに行きますと、昔はあんなに栄えてたのに、今のありようを見て、非常に心寂しい思いがするという、そういった話を市長から聞いております。私は、これは統計をとったわけではないんですけども、大半の皆さんが感じていることではないかなというふうに思っております。

そういった中で、私は確かにあそこは西鉄という私企業の持ち物なんですけれども、市

がもっと積極的に関与してもいいのではないかなというふうに考えております。

そういった中で、私は少しとつぴかもしれませんけれども、公設民営、行政施行なんていうのも1つ考えてもいいのではないかなあというふうに思っております。

市があそこにある程度お金をつぎ込んで、私有地に建物を建てさせてもらって、企業の私物ですね、そこに建物を建てさせてもらって賃料を払ってやっていく。こういったことをやっても、私は市民の理解が得られるのではないかなというふうに思っております。

また、バブル経済の崩壊により、旧甘木町の地価も大分安くなりました。そういった中で、バスセンターの土地も随分安くなったというふうに思っております。多分、そんなに高い値段ではないと思います。

そういった中で、私は市が土地を買い上げてでも整備をしてもいいのではないかなというふうに考えておりますが、まず買い上げる、それから今度は公設民営で借り上げるという考え方、これについてのお考えを聞かせていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 確かにそういった方法は考えられるとは思いますが。

ただ、市の思いと、それから直接の土地の持ち主の方、それからそれをどう使っていくのかということを総合的に考えながら、整理をしていく必要があるだろうというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 選択肢としては考えられるというお答えだったんですけれども、ではこの朝倉市民の思いといいますか、これをやっぱり何とかして西鉄側に伝えないといけないというふうに思っております。

朝倉市民にとって、甘木のバスセンターというのは非常に特別なものなんだよということを伝えないといけないと思っております。

その伝える手段というのは、市長が個別に西鉄の役員の方に会いに行くとか、西鉄の担当者と市の担当者が会うとか、それ以外の方法というのはないのでしょうか。それ以外の方法というのは考えられませんか。それをお尋ねしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 今2つの方法については既にやっております、最終的にまだ結論に至っていないということでございます。

何かしら前向きにそういった方法があるとすれば、ぜひ研究してみたいし、また提言お願いしたいというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 旧甘木のバスセンターなんですけれども、土地の広さというのは何坪ぐらいございますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 私どもが検討の中で、手持ち資料で持っております西日本鉄道所有の面積につきましては2筆ございまして、合計の3,961.7平米でございます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） としますと、約1,000坪強ということですかね、はい。

そうしますと、甘木の国道沿い、基準地価とかいろいろ出ておりますけれども、相場でいくと1坪20万円ぐらいじゃないかなというふうに考えております。

そういった意味で、1,000坪であれば2億円、2億円ぐらいであれば、そんなに手の出ない金額ではないのかなというふうに考えております。そういった意味では、ぜひとも買い上げてでも私は整備をすべきというふうに考えております。

そういった中で、いろいろ手を尽くしているということですが、具体的にはどういったことをなさっているのか、もう一度お聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 現在、商工会議所を中心に街中活性化協議会というのを設立していただいて、その中でいろいろ研究をした経過がございます。また、そこから提言を受けたという経過もございます、議員御承知かと思っておりますけども。

そういったものも受けながら、個別にいろいろ、道路自体が狭いという問題、それから周りの環境ですね、その土地のみの考え方でいいのかといったこともその中には含まれると思っておりますけども、具体的な内容についてはこの場では申しかねます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 具体的な内容はちょっと申し上げられないということですので、これ以上はお聞きいたしません、ぜひとも甘木、中心市街地の活性化のために私は甘木のバスセンターを少なくとも今よりはもっと見栄えのいいもの、玄関口としてふさわしいものにしていきたいというふうに思っております。

この質問の最後に、市長にお考えをお聞きいたしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 9日の浅尾議員の質問に対しても答弁させていただきました。

甘木の、今、甘木の中央バス停ですけれども、朝倉町の御老人の話もしましたが、私自身も小学校・中学校のときは、あの当時、西鉄バスでうちから千手から幾らだったですかね、10円か20円ぐらいだったと思います、バス賃がですね。

甘木に来て、そしてあそこで甘木でうどん食べて帰るのが楽しみでした。その時は、必ずあのバス停で降りました。いわゆるモータリゼーションというか、自家用車の普及で、公共交通機関に乗られる方が随分減ってきた。特に、甘木の場合は路線バスが御存じの状況です。

ですから、今、公共交通ということではいろんな形で、空白地帯を埋めていこうという努

力をしてるんです。そういった中でも、あの甘木のバス停というのは確かに今の状況というのを見ると寂しい。私自身も寂しい思いがします。

ただ、残念なことはこれが1つには新プラン21の中に入っていないということが1つ。そして、もう1つあるのが、あの用地が今御存じのように西鉄の用地であるということ。そこをかう買わんというのは、また別な問題になってきますけれども、それともう1つは、あそこのバス停は西鉄バスしか乗り入れができないという現実。

ですから、私どもとしては、まずはほかの例えば甘木観光が運行している地域の路線バス、あるいは今市が取り組もうとしておる公共機関も一緒にそこに乗り入れるような場所にさせていただきたいと。

そのためには、いろいろ長い歴史、経過の中で、西鉄としては、もうほかに乗り入れさせないという状況が今続いております。

そのためには、やっぱり何とか窓口は公共交通推進室が窓口になって、西鉄と事務同士の、今、接触をしていただいております。

いずれ、時期が来ましたら私自身、西鉄に出向きまして、ぜひ、今、中島議員が言われたような地域の人間のあのバス停に対する思いとか、そういったものも伝えながら、一方では、今、市で整備するという話がありました。これも、余りこういうところで言うとあれですけど、このことも含みながら西鉄との交渉をやっていかなきゃなんだろうというふうに思っています。

ですから、私自身も、いつごろということとははっきり申し上げられませんが、そういう形で何とか実現をしたいというふうに思ってますので御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 朝倉市民の強い思いを市長に託したいというふうに考えておりますので、ぜひとも前向きに事が進みますように、交渉のほう、よろしく願いしたいというふうに思っております。

続きまして、ひとり世帯の増加についてを質問させていただきたいと思っております。

私は、この年、48になります。私の同級生というのにも独身の者がたくさんおまして、男性も、男の友達、女性の友達、それぞれ独身がおります。ちょうど、私たちは年男でございまして、次のうさぎ年のときが60の還暦を迎えるんですけれども、そのときに同級生が口々に口にしますのは、将来が不安であると、自分は孤独死するんじゃないかということをおし上げます。

私は結婚してますので孤独死の心配はしなくていいのかなというふうに思ってるんですが、やはりひとりであれば両親が先立ち、結婚してなければ孤独死というのも少し心配になるのではないかなと思っております。

また、病気の話なんかもするようになりましたので、やはり健康でいつまでいられるか

わかりませんので、やはり1人よりは2人のほうが心強いというふうに考えるのではないのでしょうか。

そういった中で、生涯未婚率という数字がございます。これは、50歳時で結婚経験がない人の割合をあらわす数字でございます。2010年度の厚生労働白書によりますと、2010年の男性の生涯未婚率は約19%、5人に1人が未婚であるということになっています。

これが、団塊ジュニアが中高年になる2030年、約20年後には約30%になるというふうに言われております。約3人に1人が未婚であるということになってます。これは、やはり少子化進展への警告だというふうに考えております。

女性の場合は、2010年が10%、2030年の予想がそれでも22%と男性よりは幾分か低いですが、決して全体的に低い数字ではないというふうに考えております。

そういった中で、私は婚活というのがけさの田中議員の質問のお話の中にもありましたけれども、蜷城地区のほうでなされた婚活が2組成果を上げて、子どもさんまで生まれたということを聞いております。

こういった意味で、小さなコミュニティでもやれることであるので、私は朝倉市でも婚活等に取り組んではどうかなというふうに考えております。朝倉市の独身同士が結婚するだけでも私は十分な成果があるのではないかなというふうに考えております。

何も、子どもが生まれればそれは一番いいんですけども、まずは結婚しないと日本の社会の場合、子どもができる可能性というのは、非常に確率というのは低いので、外国のフランスみたいに婚外子が50%いるとか、そういった社会ではありませんので、やはりまずは結婚していただくことが大事だというふうに考えております。

そういった意味で、市が婚活に乗り出すということは、ある意味、朝倉市の文化の継承者を確保するという意味でも私は大事なことではないかというふうに考えておりますが、市が婚活をすることについていかがお考えか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（青笹祥子君） 朝倉市でも現在、田中議員がお話されましたように男女の結婚を望む男女の出会い応援事業というのに取り組んでおります。

これは、次世代育成支援計画ですね、それにのっとりまして、その1つで県が実施しております新たな出会い応援事業というのを活用してものでございます。出会いの機会が少ない独身の男女に対しまして、出会いの場を提供し、結婚のきっかけをつくるということを目的としております。

事業の趣旨に賛同していただく団体、そこに助成を行いまして、今、事業実施ということをやっております。補助額としましては、事業の3分の2以内かつ補助金の上限といたしまして50万円というふうにいたしております。

実績でございますが、平成21年度には1団体に補助いたしまして4組のカップルが誕生し、そのうち2組が婚姻されているということです。

22年度につきましては1団体、これも1団体ですけれども、16組のカップルが誕生して1組が婚姻されているということでございます。

ことしの23年度でございますけれども、今のところ2団体へ助成をしております。6組のカップルが誕生しているという報告を受けております。

市が取り組んだらということにつきましては、今のところこういう形で助成をしているということでございます。

市の男女の出会いの応援の事業と申しますのは、非常に婚姻という行為そのものが非常に個人的なものでございまして、行政として積極的に関与すべきかどうかということは議論のあるところでございます。

若者の晩婚化、議員おっしゃいますように未婚化というのが少子化ということの主な原因というふうになっておりますので、少子化対策のために今のところ必要な事業という判断で実施しているということでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 結婚した夫婦の子どもの数というのは、そんなに私はかわってないと思います。まあ、2人か3人ぐらいで、そういった中でやはりこれだけ若者数が、少子化が叫ばれているということはやはり晩婚化、結婚するのが遅くなっている。それから未婚化、結婚しないということが私は原因ではないかというふうに考えております。

そういった中で、「草食系男子」、それから「待ち受け女子」と言われるような非常にある意味消極的といいますか、そういったことに忙して時間がとれないのかもしれませんが、なかなかそういった婚活の情報弱者といいますか、そういった若者がいるのも私は事実だというふうに思っております。

今、事業で補助金を出して1団体が成果を上げているというふうに聞きましたけれども、これは1つの助成金を出すということですので、一種のアウトソーシングといいますか、市みずからやることについて、確かに議論があるというふうにおっしゃられましたし、まだそれは十分揉んでないんだと思うんですが、私はもうそろそろ積極的に市が関与するときに来ているのではないかなというふうに思っております。

一般質問の内容をずっと聞いておりますと、昔、私が議員になったばかりのときは、どちらかというと景気をもっとよくしようとか、産業を活性化しようとか、そういった質問が男性の議員さんも多かったです。

しかし、最近は、少子化に歯どめをかけないといけなとか、人口をふやさないといけなとか、そういった質問が男性議員の中でも多くなってきたような気がいたします。

そういった中で、私はそろそろ市がこういった婚活もしくは人口増加、それから子どもに関すること、こういったことに関与すべきではないかというふうにも思っております。

私はいっそのこと、月並みですが、子ども課などをつくりまして、こういった婚活とかいうことを市が直接音頭をとってやっていくべきではないかなというふうに思っております。

す。蜷城のしろのノウハウを私はいただければいいと思っております。この助成している1団体のノウハウをかりてきて、その人たちにノウハウをいただいたらいいと思っております。直接やるというのは考えられないのでしょうか。もう一度答弁をお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埤本 潔君） この男女の出会いの応援事業につきましては、もともと全国に先がけて福岡県で取り組んだと。

ですから、ある意味、全国で一番取り組んだというような事業でして、当時、いろいろと分析してみますと、独身の理由として1番にあるのが適当な相手に巡り合えないからというのが57%超えておると。他の要因として大きいのは、定職につけないと。あるいは最近、非正規雇用というのが多いですから非正規雇用の若者がふえたというのが30数%あるんですが、やはり結婚したいんだけど適当な相手に巡り合えないと。そこについては今、議員がおっしゃったのとほぼ同様の問題意識から行政として取り組むと。

実際にやるときに、やはり市町村におきまして、県におきまして、直接、行政そのものが事業をやるのか、それとも政策としては取り組むんだけど、それを他のところにやらせるのか、そこはさまざまな手法があるんですが、政策として取り組む必要があるというふうな認識は持ってますし、現在も一定のことは行ってますけれども、さらにこの問題については問題意識を高めて取り組んでいくべきではないかということにつきましてはそのとおりだと思います。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 政策としては取り組むべきだ。

しかし、直接するかどうかというのはまだ議論の余地があると、そこまでは考えていないということでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埤本 潔君） 政策として直接取り組む必要があるという認識で、じゃあそのときに市役所が例えばパーティのようなものを実施するのか、それともそういうパーティを実施するのはほかの主体に委ねたほうがいいのかと、そこについてはいろんなやり方がありますから、やはり行政組織はそのものでやるよりも他の団体にやってもらったほうがうまく仕組み、こなせるんじゃないかなというような意味で実施する主体が他のところ、例えば委託でやるとか、そういうふうな意味で、直接偽行政として取り組むべき課題だという認識を持っています。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は一度、市が、一度というのはできないのかもしれませんが、市が直接主体となってやってみる価値は十分にあるのではないかというふうに考えております。

やはり市がやるということは非常に信頼感がございますし、親御さんも行ってみないか

というようなお気持ちになるのではないかなというふうに思っております。やはり市というのは非常に大きな信頼を持たれておりますので、そういった意味でできることであれば旗を振っていただけないかなあというふうに考えております。

ちょっと無理を申したかもしれませんが、この可能性についていかがお考えかお聞かせください。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 考え方としては決して間違いじゃありませんし、可能性はあると思います。

実際に、じゃあ市役所の職員がそういうパーティをするのか、それとも委託したほうがうまくこなせるかということで、おっしゃっていることについては不可能な話ではないというふうに考えています。

他の主体にやらせる場合にも、やはり市役所が全面に立ってやっていると、地方公共団体として政策として取り組んでいるということをしかりと出すことによって、市民の皆さんにも安心して参加していただけるというようなことが必要なかなあという認識は持っています。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） ありがとうございます。

私は朝倉市というのは非常に住みやすいところだというふうに思っております。先日、ブータンの国王が参りまして、GHPですかね、国民幸福度指数、こういったのを標榜されまして非常に日本国民が好感を持って国王を迎えたという歴史がございます。

私は、朝倉市の幸福指数は高いのではないかなというふうに思っております。そういった中で、朝倉市の方、幸福指数が高い人同士が結婚するというのは私は非常にいいことではないかなというふうに考えているんですが、朝倉市の幸福指数につきましてはどのようにお考えかお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 企画政策課長。

○企画政策課長（秋穂修實君） 今までに、市としまして幸福度、幸福指数というものを調査したことはございません。

それぞれの人が幸福と感じる尺度は、一人一人異なると思いますし、それを1つの尺度で計ることはまた難しい面もあるのではないかと思います。

福岡県のほうでは、「県民幸福度日本一を目指す」として現在策定中であります福岡県の総合計画、この中で県民生活の安定・安全・安心を向上させるために活力あふれた成長力に富んだ経済と雇用の創出でありますとか、災害や犯罪、事故がなく安全に安心して暮らせることなどを実現するよう10の項目にまとめられているようです。

市としましても、この県の考え方や取り組みを活用可能な部分につきましては積極的に活用し、連携して進めるべき事業は連携するということで、市民にとって住みよいまちづ

くりというものは幸福につながるのではないかなと思っております。

また、つけ加えますと、市民アンケートの中で以前、平成19年度第1次朝倉市総合計画を策定する中で、このような直接幸福度ではありませんが、住みよさについてのアンケートをとっております。

その中では、「朝倉市は住みよいまちだと思うか」という設定に、結果は「住みよい」と回答された人17%、「まあ住みよい」と回答された方44.4%合わせまして61.8%の市民の方が、朝倉市をどちらかといえば住みよいというふうに答えているということです。以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 朝倉市を60.8%の方が住みよいというふうに答えているというのは、私は実感としてそれくらいあるのかなというふうに思っております。

内閣府が2010年の4月に日本人の幸福度についての意識調査の結果を発表いたしました。この調査は、15歳から80歳の男女4,000人を対象に「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として自分はどの程度幸せかを点数化して回答してもらったものです。

調査結果によりますと、日本の平均点は6.5点で、欧州を中心とした28カ国で行われた調査と平均が6.9点なので、日本人は欧州の方に比べると少し幸せ度が劣っているというふうに言われています。

ただ、幸せというふうにとらえている大きな項目といいですか、判断基準の大きなものに健康であることということが上げられているそうです。私は、この質問のように上げましたように、ひとり世帯がこれからふえていきますとやはり朝倉市のほうで介護のほうにもお金がかかりますし、またいろいろな行政コストもひとり世帯というのはやはり効率が悪いというふうに考えております。そういった意味では、できるだけ家族で暮らしていただきたいというふうに思っております。そういった意味で、婚活を進めたほうがいいのではないかなというふうに考えております。

また、震災等がございまして世の中の価値観なんかもかわってまいりまして、家族の絆を見直すような気風が高まっております。

そういった意味で、これからの朝倉市のひとり世帯をふやしていかないといいますが、そのための方策としては1つに十分な介護施策、それから2つ目に強いコミュニティづくり、そして3つ目に私は前提条件となりますやはり晩婚化とか未婚化とか、こういった条件を潰していくことが私は必要ではないかなというふうに考えております。

そういった意味で、朝倉市はコミュニティが非常に強いので、強いコミュニティづくりというがやはり必須ではないかなというふうに考えております。

このひとり世帯の見守りという点で、コミュニティの点で何かやっていることがございましたら教えていただきたいんですが、ありましたら答弁のほうお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埤本 潔君） 具体的な部分についてはあれですけど、もともと地域で安心を支えていくということは、これまでのような形で、これまでと違いますか、行政だけではできないのではないと。そこにつきましては、市民の皆さんと行政とが協働して取り組む必要があると。

そこに、高齢者が高齢者を支えていかざるを得ない社会に段々となってきましたので、やはりそういった意味でも地域全体で支えていかないと難しいということで、コミュニティと安全・安心というのは切り離すことができない問題だというふうに考えてます。

ですから、今の見守りネットワークの考え方につきましても深めていって、さらにコミュニティを関与させることによって、より進化させて形に進めていくべきだというふうに考えています。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 済みません、時間が少なくなってきましたので、次の質問に移らせていただきます。

職員のやる気の醸成につきましてなんですが、私はやはりこれから朝倉市の職員の皆さんがリーダーになっていただきまして、朝倉市を引っ張っていただきたいというふうに思っております。

これだけ行政も高度化しましたし複雑化しておりますので、なかなか一般の市民が行政の舵取りもしくは音頭をとっていくというのはやはり難しいのではないかなというふうに思っております。やはりプロとして頑張りたいというふうに思っております。

そういった中で、私は大切なのは職員の皆さんが職員としての志を何としても実現したいというピュアな思いを持っていただきまして、辛くても苦しくてもその思いを遂げるために、その志に向けて市民をリードし続けることができるかどうかにかかっているというふうに思っております。

また、その思いが本物であれば、きっと市民は動き出しまして、職員の方はリーダーシップを発揮することができるというふうに私は考えております。

そういった中で、よく一般的に言われるんですが、市の職員の方はぼちぼちしか働かないとか、頑張っても頑張らなくても大してかわらないんだったらば頑張らないほうがいいとか、そういった悪いウサをよく聞きます。

そういった中で、市の人事の評価のシステムというふうなものはどうなっているんでしょうか。私は市の職員の方は、こういうことで評価されますよと。私は市の職員の方は自分の点数が持ち点がきちっと把握されまして、あなたは現時点で50点ですと、80点になりましたら次のステップに昇進できます、あと30点をとるためにあなたはこういうところとこういうところとこういうところを直さないといけませんよと、こういったふうに客観的に評価される仕組みというのが必要ではないかというふうに思っております。

市のほうはそうになっていますでしょうか。答弁のほうお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） 人事評価システムについては、平成22年度に朝倉市人材育成基本方針というものを策定をいたしまして、その中で職員の意欲の向上だとか、能力開発を目的に人材育成ツールの1つとして考えております。

したがって、申しわけないんですが、具体的なものはまだ発表できる段階でございまして、現在検討しておる段階ということでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） しかし、今、現実には人事が行われておりまして、昇進・昇給が行われていると思います。

これは、こういった形で評価をされているのか、もし具体的にお話できるのであればお聞かせいただきたいんですが。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） ただいま、人事秘書課長が22年度と言いましたが、22年の3月の実施ということになります。

現在のところ人材育成また人事評価をいたしておりますが、その中で求められる行動、果たしている役割とか、そういったものを総合的に見まして人事配置をいたしておるところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） そうなりますと、評価を受けるほうにつきましては、フィードバックといいますか、あなたはこういった評価ですよと、そういったフィードバックというのはあるのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） フィードバックというのは、なかなか難しいわけですが、特に今、気をつけているのは、本人からの希望もありますが、公平性、透明性を高めるとともに、信頼性をということで設けております。

相手方に対して、まあ、職員であります、職員はエネルギーでありますので、しっかりと評価はしていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は、ちょっと済みません、前の職場のことを引き合いに出させていただきますが、私という人間の評価というのが簡単にいいまして、1枚の紙にまとめられていまして、この人はこういうところが強いけれども、こういうところが弱いと。こういうところをもっと頑張るべきだというふうに点数化をしていまして、ああ、私はこういうところが劣っているんだなあ、またこういうところをもう少し頑張れば次の評価につながるんだなあというのが一目瞭然でわかります。

そういったわかる仕組みがないと、だれから評価されているかもわかりませんし、どう

いった基準で評価もされているかも知れませんが、職員の方はやる気を出せというふうに言われても、なかなかどこをどう頑張っているかがわからないというふうに思っているんですが、そういった仕組みに早く移行すべきだというふうに私は考えております。

これに速やかに移行するというお考えはございますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 速やかにという御意見でございますが、確かに数値化は必要だと思っております。

ただ、今、考えておるのは自己申告の実施と、それから係長なり課長なり部長なり、そういったところの評価ということも加味しておるところでございます。

あくまでも人間が評価いたしますので、なかなか公平性というのが、透明性というのがなかなか難しいかなあということで、ちょっと研究中でございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） まだ準備ができてないものを、急いでやれ急いでやれと言ってもそれはなかなか難しいものがあると思いますし、答弁のほうもなかなか難しいと思いますので、ここまでにしておきたいと思うんですが、私は早くそういった透明性のあるシステムを入れまして、やる気のある方はもっともっと頑張ってもらえるような、そういう職場環境にしていきたいというふうに思っております。

私は、朝倉市の職員の方がいかに頑張るかが、それこそ朝倉市の発展の明暗を分けるというふうに思っておりますので、ぜひともそういった朝倉市の職員のやる気につながるシステムを導入していただきたいというふうに考えております。以上で、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員の質問は終わりました。

午後 1 時 10 分まで休憩をいたします。

午後零時 8 分休憩
